

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」AQUA (Asia-Kyushu Advanced Medical Network)活動報告

清水, 周次
九州大学病院

中島, 直樹
九州大学病院

<https://doi.org/10.15017/8299>

出版情報 : 「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 1, pp.1-116, 2005-04. AQUA事務局

バージョン :

権利関係 :

11. おわりに

アジアの兄弟たちよ！ブロードバンドで国境を越えて医療を推進しよう！

次世代インターネット技術を用いたユビキタス社会の時代の到来が期待されています。保健・医療・福祉分野ではこのユビキタス技術を用いて、高齢者や認知症患者の日常生活の管理が可能となり、糖尿病などの生活習慣病患者のライフスタイルに影響を与え、e-ラーニングを用いて家庭で教育を行い、家に居ながらにして遠隔で診療を受ける、などが実現されるでしょう。これらは、現在の医療システムよりも、よりユーザー（患者）志向型で、効率が良く、安価で、正確な医療システム環境だといえます。

我々はこの数年来、アジアへの遠隔医療ネットワークの構築を行ってきましたがこのプロジェクトもユビキタス医療というコンセプトに基づいています。例えば、医師が病院のオフィスの椅子に座ったまま世界中の最新の医療技術を指の微細な動きまで見て学ぶことができる、経験したことのない新興感染症の具体的な症状を理解することによりその感染の広がりにも前もって対処することが可能となる、外来で患者の診察をした 30 分後に 5,000km 離れた国際学会場で素晴らしいプレゼンテーションを行うことができる、などです。言を代えると我々のプロジェクトは、最良で最新の医療技術を、医療者がストレス（コスト、時間、感染への不安など）を感じることなく習得あるいは供与することを主たる目的としています。

米国に対抗して EU が急激に発展していますが、それに伴い世界中の産業やネットワークが 2 極化しつつあります。一方、アジアには人口も成長率も世界有数の国々が含まれているにもかかわらず、その統合は、不安定な政情、経済格差、宗教的相違などにより遅々としています。情報サービスの遅れはアジアと米/EU の格差増大の主因となり、資源の有効利用の障害となり、さらには頭脳流出を促進します。医療分野においては、先端医療技術（内視鏡手術、ロボット手術、新興感染症やバイオテロへの対処法）、医療倫理的見解（移植医療、再生医療、遺伝子治療）や医療周辺産業（医療機器、医薬品）などの情報共有の遅れは、直接的に医療従事者、患者、市民への不利益をもたらします。逆に言えば、遅れがちなアジアの医療社会の統合を促進することができれば、第 3 極の形成を通じて世界規模での医療の発展へも貢献するでしょう。

我々のゴールは ICT (Information and Communication Technology) を用いたアジアの医療社会の統合と医療情報の共有化であり、またアジアにおける医療者の国際親善の場の提供です。

「さあ、アジアの兄弟たちよ！ブロードバンドで国境を越えて医療を推進しよう！」

平成 17 年 4 月
九州大学病院 医療情報部
中島直樹